評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000423
法人名	医療法人　新清会
事業所名	グループホーム　むつみ荘
訪問調査日	平成　19　年　12　月　18　日
評価確定日	平成　20　年　1　月　25　日
評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年 1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4373000423
法人名	医療法人　新清会
事業所名	グループホーム　むつみ荘
所在地 （電話番号）	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371－6 （電　話）0966－82－2146

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3－13－12－205		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	1月25日

【情報提供票より】（　19年　10月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　10　年　10　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	7　人	常勤　7　人，非常勤　0　人，常勤換算　7　人

（2）建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造、鉄筋　造り	
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	9,000　円		その他の経費（月額）	3,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　850　円			

（4）利用者の概要（10　月　1　日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3	名	要介護2	2	名
要介護3	3	名	要介護4	0	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	86 歳	最低	79 歳	最高　91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	水俣病院　篠原医院　井上歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県南部に位置するむつみ荘は隣接の母体医院や併設老健と連携した取組みにより、健康管理や緊急時対応等安心した生活が送られている。毎月法人理事長・事務長・ホーム側でのカンファレンスにより情報の共有化を図り、担当看護を病院の中に配置したり、病院のワゴン車の借用などハード・ソフト両面から支援を受け、日々の散歩や生き生きタイム等を取り入れ、地域の行事に参加したり、毎日の散歩や月間計画を立て季節に応じた外出支援等メリハリのある日常とする事で認知症進行防止に繋げ、地域の花植えに参加する等地域の一員として活動している。既存の建物であり、全てがバリアハリー化とはいかないが、階段に昇降機を付け、職員の見守りと寄り添いのケアにより機能低下防止としている。職員も定着され、細やかな気配りが家族への信頼関係となって表れ、職員の明るさや自然な会話等により入居者の笑顔を引き出し、大家族としての生活を垣間見ることが出来るホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価の結果をもとに改善に向けて話合いを行うとともに運営推進会議の中で報告している。ふるさと訪問やホーム便りの創設により家族との連携を深める等具体的な改善が図られている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価するに当り、管理者が職員に項目毎に説明し、会議を開き気づきや改善点を明確にしている。自己評価の結果を次回の運営推進会議で報告する事としている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

18年5月より2ヶ月毎の開催が定例化している。ホームの活動状況や地域との交流促進のための話合いが行われ、委員から地域の行事をリサーチし様々な外出の機会を得ると共に、地域の花植えに参加する等地域の一員としての活動も取り入れ、サービスの向上に活かしている。ホームからの申し出により、遊歩道にベンチが設置されている。ホーム便りも地区への配布をお願いしており、今後更に地域への啓発となる事が期待できる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の訪問時暮らしぶりや健康状態を説明し、ホーム便りを作成し、入居者の様子や予定を記載し家族への周知を図っている。玄関に意見箱を設置するとともに、家族の訪問時気軽な声かけと意見を言いやすい雰囲気作りに心がけ要望や意見を聞いている。毎年行われる家族会での意見等運営に反映させ、外部の相談窓口を掲示している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

隣近所との関係は日々の散歩時挨拶等により見守り支援をしていただけるまでに深まっている。運営推進会議を通して地域の行事をリサーチし参加したり、地域活動の一環として花植えの参加、地域の文化祭へ入居者の作品を出展をし、入居者の自信へと繋げている。入居者のふるさとも一つの地域と捉え古里訪問として全入居者で訪れ、その地での交流が持たれており、今後も家族との絆をより一緒深めるため継続して取組む意向である。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人間としての尊厳・個性・主体性の尊重を理念として、地域との関係を深めつつ、入居者の地域とはを模索し、入居者のふるさとも一つの地域と捉え、ふるさと訪問を取り入れている。今後より一層家族との絆も深めていく意向である。	○	地域生活の拡充、地域との関係強化に取組まれている。更に理念の中に地域との関係を具体化して盛り込んだり、平易な言葉での表現など再検討され、地域への啓発に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングでの唱和により意識付けや定例化したケア会議や担当者会議等によりケアの統一を図り、全職員が理念の実践に向け真摯に取組まれている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所との関係は日々の散歩時の挨拶等により見守り支援をしていただけるまでに深まっている。運営推進会議を通して地域の行事をリサーチし参加したり、地域活動の一環として花植えの参加、地域の文化祭へ入居者の作品を出展をし、入居者の自信へと繋げている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価するに当り、管理者が職員に項目毎に説明し、会議を開き気づきや改善点を明確にしている。前回の外部評価の結果を改善に向けての話合いを行うとともに運営推進会議の中で報告している。ふるさと訪問やホーム便りの創設により家族との連携を深める等具体的な改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年5月より2ヶ月毎の開催が定例化している。行政・区長・民生委員・法人の理事長・事務局からの参加を得て、ホームの活動状況や地域との交流促進のための話合いが行われ、委員から地域の行事をリサーチし様々な外出の機会を得ると共に、地域の花植えに参加する等地域の一員としての活動も取り入れ、サービスの向上に努力している。ホームからの申し出により、遊歩道にベンチが設置されている。	○	議事録によるとホームの理解の促進や地域との具体的な交流支援のための意見が出ている。今後活発な意見が出るよう会議の進め方を検討したり、自己評価・外部評価をもとに委員からの意見等を収集したり、議事録を全家族に配布すると関心も深まると思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や介護認定審査の訪問時等情報交換を行っている。認知症ケア（事例検討会）等包括支援センターと連携して行い、質の向上を図っている。	○	更に市町村との連携強化のため、自己評価・外部評価の結果提出の際、ホームの現状や取組み状況等を説明したり、ホームの還元としての勉強会等市担当者と共に企画・参画される等積極的な働きかけに期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族の訪問につなげるため、利用料金は持参してもらうようにし、その機会を家族への報告の機会と捉えている。入居者の暮らしぶりや健康状態の説明と個別管理ノートにレシートを貼り家族から確認してもらいサインにより確実化を図っている。ホーム便りを作成し、入居者の様子や予定を記載し家族へ配布し周知を図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、家族の訪問時気軽に声かけをし、要望や意見を聞いている。家族会での意見等運営に反映させている。外部の相談窓口を掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が責任を持ってケアにあたれるよう常勤としており、この1年異動や離職者も無く、馴染みの関係の重要性を認識されており、一つの家族としての生活が継続されている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で行われる“聞いて得する話”やリーダー研修等法人内外等輪番で参加し、資料を全職員が閲覧し情報の共有化を図っている。資格取得に向け、実技訓練を母体病院で行う等、バックアップ体制が構築している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会に加入し、勉強会や研修を通じた取組みや同法人内の2つのグループホーム同士又他のグループホームや他の事業所との交流により、質の向上を図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に生活歴や心身の状況を施設や病院に出向き、看護師やケアマネジャーとの意見交換により把握する事に努めている。本人・家族との見学により安心して入居してもらい、家族の協力のもと、徐々に馴染めるよう工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一家族として、支援する側・される側に立たず、常に感謝の言葉をかけながら、和気藹々とした生活が送られている。一人ひとりにゆっくりと向き合い、職員の観察により得意分野を作り、自信や満足感へと繋げている。入居者同士も支えあいながらの生活ぶりを垣間見ることが出来た。ホーム全体で喜怒哀楽を共有し、共に支えあう関係を築いている。「仏壇に手を合わせなさい。お参りすると気持ちの良か。」と言われる入居者や婦人消防団長だった入居者は火の始末が大切だと「したつもりでももう一度確認しなさい。」と注意を受ける場面など垣間見られた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情等個々のサインを察知し、全職員での共有化を図っている。意思の表出の困難な入居者に対して、家族からの情報や職員の観察力によって意向の把握に努力されている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、本人・家族の意向を踏まえ、ホームの職員によるケア会議や医師・法人事務長・管理者を交えた担当者会議を毎月開き、24時間生活変化シートやアセスメントまとめシートを活用した介護計画を作成している。担当制を取り入れ，個別援助計画は職員の意見や観察が随所に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議や担当者会議を開催し、状態の変化に応じ随時見直しが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による受診対応、美容師資格を持つ職員により無料のカット等柔軟に対応している。母体医院のワゴン車の借用による遠出や医療との連携（病院に入居者の心身状態を熟知した看護師をホーム独自の担当者として配置している。）等ハード・ソフト両面からの支援体制など多機能性を活かしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医としているが、ホームにまかせたいという意向の場合には母体医院としている。母体病院が隣接しており、往診・緊急時対応等安心した生活となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時本人・家族に運営方針を説明し、意向を聞き対応方針を立てているが、隣接の母体医院並びに併設の老健も有り、終末期までは取組んでいない。	○	高齢化・重度化に向け、出来る事・出来ない事を見極め検討する意向がある。今後方針を明文化され、全職員で方針を共有し安心した生活が長く続けられよう望みたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりを尊重し、思いやりを持って接している事が訪問時に確認できた。方言での自然な会話や呼称からも自然体で臨んでいる事が窺われる。面会簿は2階に保管する等個人情報の漏洩には特に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	援助方針とて、役割を提供し、職員と一緒に関わり、馴染みの存在になったり、行事へ参加する事でメリハリと認知症進行防止につなげるようと努力する事を掲げ、生き生きタイムとしてラジオ体操をやっっているが食事開始も個々の気分で早かったり遅かったり自由であり、食後は好きな場所で横になったり、入居者同士の楽しい会話で笑いのある午後となっている。時にはカラオケやボール遊び、音楽をかけ踊ってみたりと個々の希望に応じ支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食べたい物を聞き取り、その都度献立を立て、力量に応じ野菜の下ごしらえ等一緒に行っている。全介助者の横でゆっくりと食事を進め、入居者・職員が同テーブルで楽しい会話の中での食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴支援が行われ、入浴拒否でも強制せず、会話等から入浴を導き、介護度の如何に関わらず職員のチームワークと技術により支援している。又。入浴剤を使い、ゆっくりと楽しんでもらうようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や出来る事・出来ない事を把握し、得意分野を発揮出来るよう支援している。食材の下ごしらえ、茶碗拭き、夕方になるとベッドの用意“寝床敷き”担当等入居者一人ひとりの自信や楽しみを支援している。又、年間行事予定を作成し、毎月季節に応じた遠出や地域への行事参加等気晴らしが出来るよう機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体病院への治療を兼ね、日常的にホーム周辺の散歩をしている。心身状態にかかわらず、入居者全員で外出することは全員の楽しみにもなっており、遠出には母体病院のマイクロバスや運転等の申し出も受け、「きつかばってんいこか。」と声かけし、普通の生活をしていただきたいと支援している。古里訪問にも弁当持参で全員で家庭を訪問している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠が心理的な弊害につながることを認識しているが、幹線道路に面していることや2階が生活の中心であり、安全性からやむを得ず家族の了解を得て玄関の鍵をかけることがある。近隣住民の見守りや連絡体制は構築している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の中で、避難場所をリサーチし、社協センターや小学校・隣接の医院と確保し、運営推進会議で地域の人々の協力を働きかけている。避難訓練は予定があったが今のところ行われていない。	○	避難訓練を早急に実施されることが求められる。近隣住民や母体医院と共に取組まれることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後・午前午後のおやつと夜間の水分確保と食事摂取量をバイタル表の中に記録している。医師の指示のもと、できるだけ食べたい物を食べてもらうことで体力維持を図り、食事摂取量によっては、栄養補助食品を利用している。バランスの良い献立と家庭的な食事を提供している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大半を過ごす大広間と台所はつながっており、開放感に溢れ、入居者はソファーやマッサージチェアーに座ったり畳に横になったりと思い思いに過ごせるよう配慮している。冷暖房や加湿器を使用した大広間に入居者の心身状態に関わらず居室から移動して日中を過ごしている。仏壇もあり、毎朝手を合わせ、御仏飯の上下ろしが入居者の役割となっている。1階玄関周りも家庭的な雰囲気であり、階段の壁を利用した季節感溢れる掲示物など居心地良く過ごす工夫が随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階の居室は畳敷きの襖で仕切られた和室にホームが用意した箪笥が置かれ、生活用品を中心に鏡台やソファー等の持込もある。換気のために窓や襖を開け、ベッドの上に布団等もたたまれ、掃除の行届いた居室である。夕方になると「そろそろ寝どこ敷きに行こうか。」と入居者3名で率先して降りていかれた様子から日常の生活を垣間見ることが出来た。	○	家族へは使い慣れた物の必要性を説明し依頼されているが、更に家族との絆をつなぐために、家族との写真等居室に置きたいという意向があり、訪問時に家族とのスナップ写真を撮ったり又ホームで撮られている多くの写真等有効に活用され、自宅での生活の延長上にあることの認識とされると良いと思われる。